音楽の都ウィーンで抜群の人気を誇る名門オーケストラ
優雅な響きが新年を彩る

ウィーン・サロン・オーケストラ ニューイヤーコンサート2018

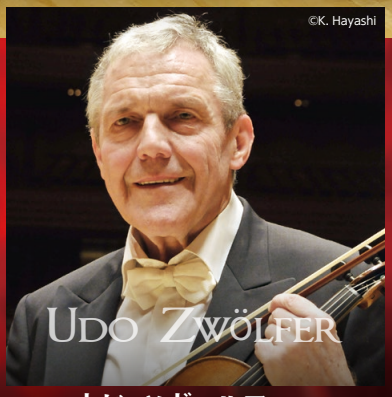
SALON ORCHESTER ALT WIEN NEW YEAR CONCERT 2018

2018.1.7 (日)

14:00 開演
(13:15 開場)

東京オペラシティ コンサートホール

京王新線「初台駅」東口　徒歩5分（京王線相互乗り入れ都営新宿線にて新宿から2分）



ウド・ツヴェルファー
音楽芸術監督・コンサートマスター

久元 祐子
ピアノソロ

PROGRAM

W.A. モーツァルト：
ピアノ協奏曲 第９番 変ホ長調 KV271「ジュナミ」
[ピアノ：久元 祐子]

J. シュトラウスⅡ／A. ミュラー：
オペレッタ「ウィーン気質」より　二重唱

J. シュトラウスⅡ：
オペレッタ「こうもり」より
皇帝円舞曲
美しく青きドナウ

他、E. カールマンや F. レハールの名曲多数

※曲目・曲順が変更される可能性がございます、予めご了承下さい。

全席指定					
SS	¥8000（ドリンク付）	S	¥7000	A	¥5000
SSペア	¥15000（ドリンク付）	Sペア	¥12000		
PAMお年玉席	¥1000（限定30席）				

※SS席、ペア、お年玉席はプロアルテムジケのみ取り扱い。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。

チケット取扱

チケットぴあ　0570-02-9999　t.pia.jp　[Pコード 338-842]
イープラス　eplus.jp
ローソンチケット　0570-084-003　l-tike.com　[Lコード 31540]
東京オペラシティチケットセンター　03-5353-9999

主催・お問合せ　プロ アルテ ムジケ PRO ARTE MUSICAE
www.proarte.co.jp
info@proarte.co.jp
03(3943)6677

※ホームページからのご入会お申し込みで次回のチケット購入から使えるポイントがたまります。

特別協賛：株式会社イノアックコーポレーション
ベーゼンドルファー・ジャパン　Bösendorfer DER KLANG, DER BERÜHRT

後　援：オーストリア大使館、日墺文化協会

ウィーン・サロン・オーケストラ ニューイヤーコンサート2018

壮麗、優美、華麗･･･薫り高きウィーン伝統の音楽で晴れやかな新年が幕を開けます!

ウド・ツヴェルファー　（音楽芸術監督・コンサートマスター）

ウィーン生まれ。ウィーン国立アカデミー（現ウィーン国立音楽大学）、及びウィーン市立音楽院（現ウィーン・コンセルヴァトリウム私立音楽大学）に学ぶ。在学中より、多くの著名な芸術家たちと数多くの演奏活動を行い、ウィーンをはじめ、フランス、イタリア、チェコ、クロアチア、韓国、台湾、中国、アメリカ、日本等への演奏ツアー等、精力的に活躍している。1980年に、フォルクスオーパー・ウィーンの第1コンサートマスターに就任。1994年、フォルクスオーパー・ウィーン所属のオーケストラ奏者で構成された、“ウィーン・サロン・オーケストラ”を設立。1999年には、ウィーン・クアサロン（かつてヨハン・シュトラウス2世が自ら演奏し活躍した、ウィーンに於ける彼の本拠地であった歴史的施設）の現支配人であるS. ススニヤーラとオーケストラのコーポレーション契約を交わし、同オーケストラの演奏活動を本格的にスタートさせた。ツヴェルファーは、初代音楽芸術監督に就任、同時にコンサートマスターとしてオーケストラを率い、現在までに、オーストリア国内外にて4000公演以上のコンサートを成功させている。
使用楽器は、1774年のイタリア・ナポリ製、トマソ・エーバレ社のヴァイオリンである。

久元 祐子　（ピアノ）

東京芸術大学音楽学部（ピアノ専攻）を経て同大学大学院修士課程を修了。ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィル、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。
2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾り、日本人で唯一ベーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。2012年、2014年イタリア国際モーツァルト音楽祭に招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。
ブロードウッド（1820年製）、ベーゼンドルファー（1829年製）、プレイエル（1843年製）、エラール（1868年製）などのオリジナル楽器を所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組み、それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を追及する。2010年のショパン生誕200年記念年には、全国各地でプレイエルを使っての演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇皇后両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。
これまでCD12作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞CD特薦盤、レコード芸術特選盤に選ばれ、「ベートーヴェン”テレーゼ””ワルトシュタイン”」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。
著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」（音楽之友社）、「原典版で弾きたい! モーツァルトのピアノ・ソナタ」（アルテスパブリッシング）、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」（学研プラス）など多数。
国立音楽大学教授、日本ラトビア音楽協会理事。PTNA評議員。
久元 祐子 ウェブサイト　http://www.yuko-hisamoto.jp/

ウィーン・サロン・オーケストラ　（管弦楽）

1994年ウド・ツヴェルファーのもとウィーン・フォルクスオーパー交響楽団のメンバーらにより結成された。世界中からウィーンを訪れる人々に本物のウィーン音楽を、本場の雰囲気で、一流の音楽家たちによる演奏で提供しようとの狙いのもと設立。
レパートリーは、ウィーンを代表する作曲家であるヨーゼフ・ランナー、シュトラウス一家、カレル・コムザーク、カール・ミヒャエル・ツィーラー、フリッツ・クライスラー、エメリヒ・カールマン、フランツ・レハール、ロベルト・シュトルツなどの序曲、ワルツ、ポルカやマーチ。またヨハン・シュトラウス2世の代表的なオペレッタ「こうもり」「ジプシー男爵」「ヴェネツィアの一夜」「ウィーン気質」、レハール「メリー・ウィドウ」、カールマン「チャールダーシュの女王」「伯爵令嬢マリツァ」、カール・ツェラー「小鳥売り」、ミレッカー「乞食学生」「ガスパローネ」などからの有名なアリアやデュオなど、非常に幅広い。
ウィーンの伝統音楽の継承にも力を注ぐ一方で、アルバート・ウィリアム・ケテルビー、ルロイ・アンダーソンなど新しい作曲家の作品も意欲的に取り上げている。主なレパートリーは19世紀初頭の伝統音楽にしっかり根ざしている中で、聴衆が求めるプログラムには柔軟に対応。ミュージカル、映画音楽、ダンス音楽、民族音楽などプログラムは多岐にわたる。
ランナーやヨハン・シュトラウス一家の伝統を継承し、ウド・ツヴェルファーがヴァイオリンと指揮の弾き振りをするスタイル。演奏者同士の緊密なコミュニケーションと楽しげな演奏スタイルは、聴衆をも幸せに満たすような抜群の雰囲気でホールを包み込む。
ウィーン楽友協会ホールの他、ホーフブルク宮殿ホール、国立図書館ホール、ウィーン証券取引所祝祭ホールなど、ウィーン各地でコンサートを開催。1998年以降、ウィーンにおいて年間300回を超えるコンサートを開催するなど、抜群の人気を誇っている。
2001年由緒あるウィーン・クアサロンがリニューアル。ウィーン・サロン・オーケストラは、ヨハン&エドゥアルト・シュトラウス、フランツ・レハール、ニコ・ドスタルなどが演奏を行ってきたこの伝統のホールを拠点とし、聴衆、批評家たちから圧倒的な支持を得ている。これまで度々日本ツアーを行い、2004年には、中国、またカリフォルニア・ロング・ビーチでも公演を行い、大好評を博す。

歌手&バレエ

ヘーゲ・グスターヴァ・チョン（ソプラノ）
Hege Gustava Tjønn, Soprano

セバスチャン・スーレ（バリトン）
Sébastien Soulès, Bariton

ニコラ・マローヴァ（バレエ）
Nikola Márová, Ballet

ミヒャエル・シュティーパ（バレエ）
Michal Štípa, Ballet